



講師紹介

下田 正寛

メール : shimoda@wannya.sakura.ne.jp
Webサイト : <https://aspatent.jp>

1998年	北九州工業高等専門学校 化学工学科卒業
1998年～2001年	三菱ガス化学株式会社 東京工場 電子材料研究技術部
2002年～2003年	住金エア・ウォーター・ケミカル株式会社 総合研究所
2004年～2007年	新日鐵化学株式会社 総合研究所
2007年～現在	安倍国際特許事務所 (現 弁理士法人安倍・下田国際特許事務所) 2013年 弁理士登録 2014年 技術士(化学部門)登録
2018年	同事務所パートナー
現職	日本弁理士会九州会 会長 特許庁工業所有権審議会試験委員 九州工業大学大学院 非常勤講師(知的財産論) 北九州工業高等専門学校専攻科 非常勤講師(知的財産・特許特論) 熊本高専熊本キャンパス 非常勤講師(技術者倫理概論)

AI生成物に対する知的財産

Q

生成AIで生成した生成物について
知的財産として保護されますか？

A

保護されません

特許権、意匠権、著作権は、人間の創作に対する権利であり、
現行制度では、知的財産として保護する制度はありません。
ただし、今後の政策動向により状況が変わるかもしれません。

著作権侵害

複製といえるための2つの要件

類似性

似ていること

依拠性

著作物にアクセスしていること

生成AIで
特に問題

生成AIにおける生成物が著作権侵害に該当するか？

依拠肯定説

既存著作物が学習用データに含まれている等、既存著作物に直接的ないし間接的にアクセスがあれば、依拠性を認める。

(批判) 既存著作物が学習データに含まれているだけで依拠性を認めてしまうため、AIによる学習や生成の幅を不必要に制限する可能性がある。

依拠否定説

パラメータ自体はアイデアであり、既存著作物がパラメータとして抽象化・断片化されている場合には、アイデアを利用しているにすぎない。

(批判) 既存の作品が学習に用いられているにもかかわらず、その影響を無視することで、著作物の不正使用が野放しにされるおそれがある。

パラメータ生成寄与説

既存著作物が一群のパラメータの生成に寄与し、その一群のパラメータに基づいて生成物が制作されている場合には、依拠性を肯定する。

(批判) 具体的にどの程度の寄与があれば依拠性が認められるのか、その基準が曖昧である。パラメータ生成の過程自体がブラックボックスであるAIの場合、寄与の有無をどのように証明するかが難しく、実務上の運用に課題がある。

依拠性推認説

AI生成物と機械学習に用いられた既存著作物が、アクセスしていなければこれほど似ることはいえないといえる程類似している場合には、依拠性を推認する。

(批判) 類似性の程度の判断は主観的であり、これをもとに依拠性を認めることは濫用の危険がある。技術的な証拠が乏しい場合、過剰な権利主張を助長しかねない。

考えられる依拠性の立証

侵害を立証する立場

- ・ **後発の作品の制作者が、制作時に既存の著作物を知っていたか。**
⇒生成AIを利用した者から否認された場合の反論をどうするか
- ・ 後発の作品と既存の著作物との同一性の程度
- ・ **後発の作品の制作経緯**

侵害を否認する立場

- ・ **学習データの中に他人の既存著作物が含まれていないことを立証**
⇒現実的ではない

リスク低減策

作品の制作経緯を記録する（生成AIを活用した生成物には、特に創作過程を記録する）

今から150年前…



人間はサルから進化した！

聖書の権威が損なわれる！
教会の権威が…神の権威が…

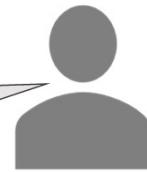


ダーウィニズムと同じくらいセンセーショナルな出来事



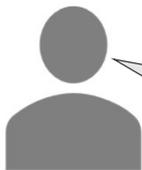
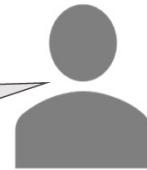
地層は何万年単位で語られるものである

聖書の記述の信ぴょう性を防衛しなければ！



ダーウィニズムへの反発

ダーウィニズムを受け入れないなんて、
笑いものだ！



そうではない！
ダーウィニズムを受け入れることで、倫理が崩壊する。
ダーウィニズムは認められず、教育に取り入れるべき
ではない。

Lettere dal lago di Como. La tecnica e l'uomo

100年前に主張

技術的、科学的、政治的性質の問題を解決できるのは人間だけ

注意喚起 「新たなもの」に対し頑迷になってはいけない

「消え去る運命にある美しい世界を守る」との思いから、「新たなもの」に対し頑迷になってはいけない。

預言的に 破壊的で非人間的なものに敏感にあり続けなければならない

- わたしたちは、それぞれが自分の場に適応しなければならない。素直にそれを受け入れなければならない。
- そこにある破壊的で非人間的なものに敏感にあり続ける、感化されない心をもつべき。

『コモ湖からの手紙—技術と人間』（原題Lettere dal lago di Como. La tecnica e l'uomo, 1927）

機械学習

人工知能 (AI)

AIと心の知恵 – 真に人間らしいコミュニケーションのために

AIには知恵を期待できず、人間だけが知恵をもつ

1 機械には知恵は期待できない

技術は豊かでも人間らしさは希薄な時代にあっては、人間の心だけが考察の起点となる。機械には、こうした知恵は期待できない。

2 人工知能という用語の「知能」は誤解を招く

「人工知能」という用語の「知能」という語の使用自体が誤解を招く。機械がデータを記録し、それらを相互に関連付けることにおいては、人間をはるかに超えた能力を有している点は疑うことはできない。しかし、その意味を読み解くのは人間だけであり、ひとえに人間のみ。

3 機械に人間らしさを要求すべきではない

AIと心の知恵 – 真に人間らしいコミュニケーションのために

AI時代の生き残り戦略のヒント

ポイント1 情報発信者一人ひとりが責任をもつ

AIの利用が、匿名の思考に、確証のないデータの集積に、集団での編集責任放棄に至ることは容認できない。情報伝達の専門性を向上させ、情報発信者一人ひとりに責任を担わせるべきである。

ポイント2 人間一人ひとりに主体としての役割を取り戻す

人間一人ひとりに、コミュニケーション自体の、それに対し批判する力をもつべき。コミュニケーションの主体としての役割を取り戻すことで、コミュニケーションの分野において貢献できるものとなる。

結論 物事を識別し、監督し、最後まで見届ける力を養うこと

専門職に求められる資質能力

●専門的学識	公開された情報が正しいか否かの判断
●問題解決	解決策の妥当性の判断
●マネジメント	資源展開の適正の判断
●評価	リスク・波及効果を評価
●リーダーシップ	関係者調整
●コミュニケーション	意思疎通
●倫理	公衆の安全・健康・福利 法令順守、責任
●継続研さん	CPD

これからの時代
特に重要

私たちが話すことば

・私たちが語る言葉は音の羅列ではない

・言葉の背後には、私たちの存在がある
心がある

▶ ことばには力がある

人工知能は、人類の比類なき潜在能力やより高い志に仕えるべき

私たちは、人工的に合成された音を、外に向かって発声する存在ではない

ことばの力

- ・人のいのちを生かす力
- ・人のいのちを奪う力。

SNSでの炎上では
興奮した心に入り込み、それを捉える、わかりやすく短いキャッチフレーズがある。

人の言葉がもつ負の力、暴力的に人のいのちを奪う力は
短いキャッチフレーズが飛び交う中で増幅され、最大限に発揮される。

責任を全うすることは難しいが・・・

SNSでの炎上状態に置かれたとき、
炎上させている人たちになぜそのようなことをしているのか尋ねたらどのように答えるか？

おそらく無責任な返事が返ってくることが多いかと。
興奮に同調して叫んだ言葉への責任など誰も感じることはない。

今後は、**SNSやAIをうまく活用し、社会全体を円滑に進めるための能力**が求められる。
SNSやAIを含む技術には、**闇の部分**があることを意識し、
この闇を打ち砕くために心の中に灯火をともしつづける技術者であることが必要。

日本弁理士会九州会弁理士の日記念交流会での挨拶

ご挨拶にあたり、我が国の経済動向などについて、私が思っていることについてお話しさせていただきます。

「炎上商法」などという言葉も、ネット上では耳にすることがありますが、今の時代、地味で緻密な論理の積み重ねよりも、大げさなパフォーマンスで注目を浴びることが成功につながると、考えられているのかもしれませんが。

私たちが所属する知財業界を含め、多くの業界において、パッと大きなイベントでも催して、多くの人たちの耳目を惹き、一気に社会をひっくり返せたらどんなに良いかと夢見ますが、しかし、**実際は、地道な積み重ねの上に成功が成り立っていることがほとんど**であります。

成功はからし種のようなものです。とるに足らない小さな種から始まって、しかし、成長していくにつれ、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほどの大きな枝を張るまでになる。

どの業界でも、派手なパフォーマンスではなく、**緻密に練られた計画に従った地道な積み重ねが重要である**と考えています。

成功の目的地ははっきりしています。そこに到達するためには、人目を惹くパフォーマンスではなく、地道な一歩が必要です。その目的地に到達するためには、**目の前の一歩に集中することが必要で、足取りが重くならないよう無駄な荷を下ろし、必要なものだけを持ち、疲れ、恐れ、不安、暗闇が歩み始めた道の妨げにならないよう日々頑張らなければなりません。**

そのうえで、ともに支えあい、互いに耳を傾けあい、ともに歩むことで、毎日、小さな一歩を社会の中に刻んでいきます。その小さな一歩の積み重ねが、暗闇の支配する社会に希望を生み出し、成功への道へとつながっていきます。